



博多港・福岡空港の 概況

令和3年9月
福岡市港湾空港局

＝ 目 次 ＝

第 1 章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） …… P.1
 - （1）取扱個数の推移
 - （2）令和 2 年の取扱個数減少の主な要因
 - （3）貨物の内訳【参考：国内主要港との比較（令和元年）】
2. 国際コンテナ定期航路と寄港地 …… P.6
3. 海上出入貨物（トンベース） …… P.7
 - （1）海上出入貨物量の推移
 - （2）令和 2 年の貨物量減少の主な要因
 - （3）外国貿易
 - （4）内国貿易

第 2 章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員 …… P.10
 - （1）船舶乗降人員数の推移
2. うち外国航路船舶乗降人員 …… P.11
 - （1）外国航路船舶乗降人員数の推移【参考：国内上位 5 港の推移】
3. クルーズ船の寄港回数 …… P.12
 - （1）クルーズ船の寄港回数の推移

第 3 章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数 …… P. 14
 - （1）入港隻数及び総トン数の推移

第 4 章 福岡空港の概況

1. 乗降客数 …… P. 15
 - （1）乗降客数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和 2 年）】
2. 貨物取扱量 …… P. 16
 - （1）貨物取扱量の推移【参考：国内主要空港との比較（令和 2 年）】
3. 発着回数 …… P. 17
 - （1）発着回数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和 2 年）】
4. 路線状況 …… P. 18

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和2年港湾統計確定値】

取扱個数：約89万3千TEU

外貿ダイレクト：約83万2千TEU、内貿フィーダー：約6万1千TEU

(1) 取扱個数の推移

令和2年の国際海上コンテナ取扱個数は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、輸移出入ともに減少した。

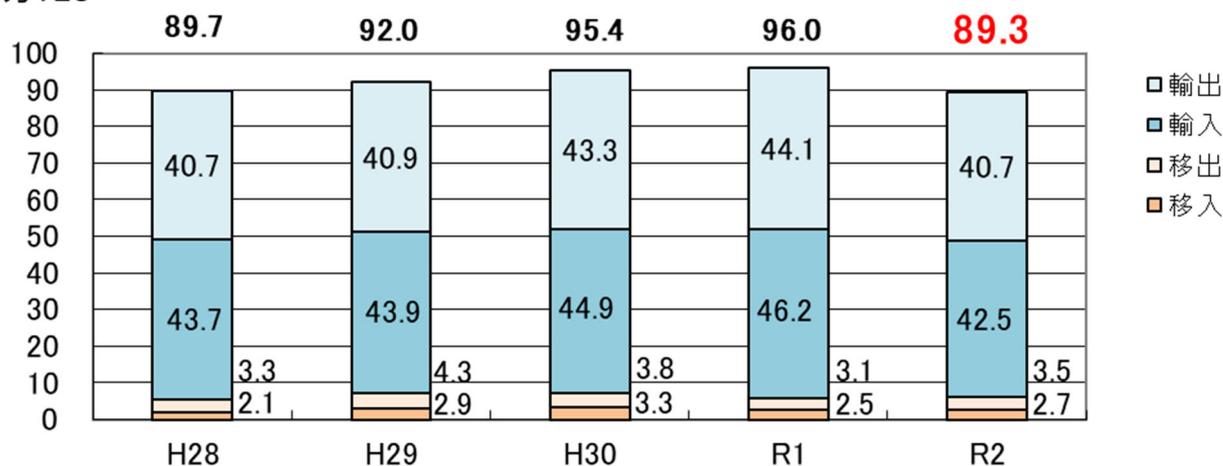
【表 1-1】

(単位: TEU)

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	897,124	920,149	953,548	960,085	893,301	▲ 66,784	93.0%
輸移出	439,258	451,920	471,276	472,708	441,499	▲ 31,209	93.4%
輸移入	457,866	468,229	482,272	487,377	451,802	▲ 35,576	92.7%
外貿ダイレクト	843,188	848,612	882,199	903,566	832,133	▲ 71,433	92.1%
輸出	406,526	409,217	432,810	441,367	406,913	▲ 34,454	92.2%
輸入	436,662	439,395	449,389	462,199	425,220	▲ 36,980	92.0%
内貿フィーダー	53,936	71,537	71,349	56,519	61,168	4,649	108.2%
移出	32,732	42,703	38,466	31,341	34,586	3,245	110.4%
移入	21,204	28,834	32,883	25,178	26,582	1,404	105.6%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数のこと

【グラフ 1-1】
万TEU



(2) 令和2年の取扱個数減少の主な要因

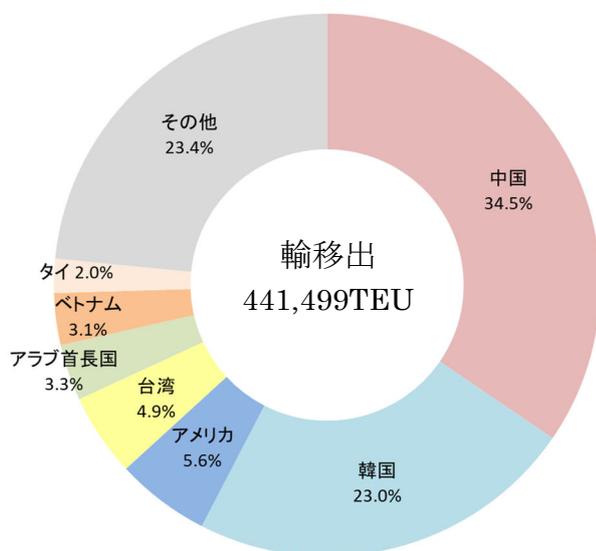
輸移出…ゴム製品（前年比▲1万8千TEU）や完成自動車（同▲5千TEU）の減少等
輸移入…自動車部品（同▲6千TEU）や紙・パルプ（同▲3千TEU）の減少等

(3) 貨物の内訳

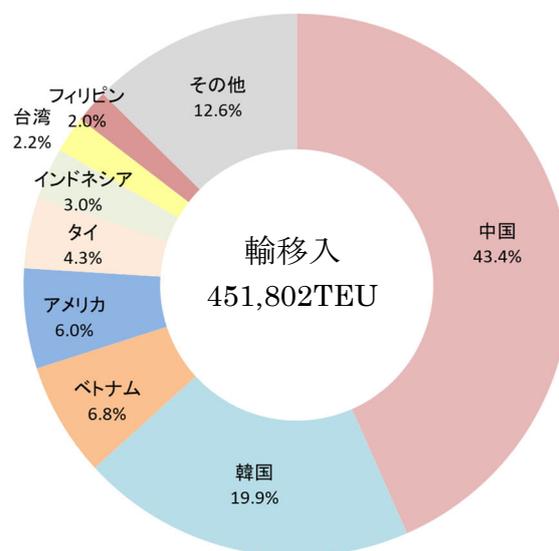
① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の6～7割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品 (タイヤ等)」や「完成自動車 (中古車)」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位を占めている。

輸移入では、主にアジア諸国から入ってくる「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの (衣類関係)」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位:TEU)

輸 移 出					輸 移 入						
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国			順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	ゴム製品	45,080	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア	1	家具装備品	49,621	中国	バトナム	マレーシア
2	完成自動車	※ 27,944	アラブ首長国	南アフリカ	タイ	2	衣服・身廻品・はきもの	41,906	中国	バトナム	韓国
3	再利用資材	21,184	バトナム	中国	台湾	3	電気機械	34,686	中国	タイ	中国 (ホンコン)
4	産業機械	18,708	アメリカ	中国	韓国	4	動植物性製造飼肥料	29,812	アメリカ	韓国	中国
5	自動車部品	14,513	アラブ首長国	韓国	マレーシア	5	製造食品	23,484	中国	韓国	アメリカ
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	14,512	韓国	中国	台湾	6	自動車部品	22,250	韓国	バトナム	中国
7	化学薬品	8,601	中国	アメリカ	韓国	7	その他日用品	16,998	中国	韓国	バトナム
8	製造食品	5,591	中国 (ホンコン)	台湾	中国	8	木製品	14,950	フィリピン	中国	インドネシア
9	輸送用容器	5,423	韓国	バトナム	フィリピン	9	水産品	14,260	韓国	中国	バトナム
10	水産品	4,389	バトナム	フィリピン	中国	10	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	13,807	中国	韓国	台湾

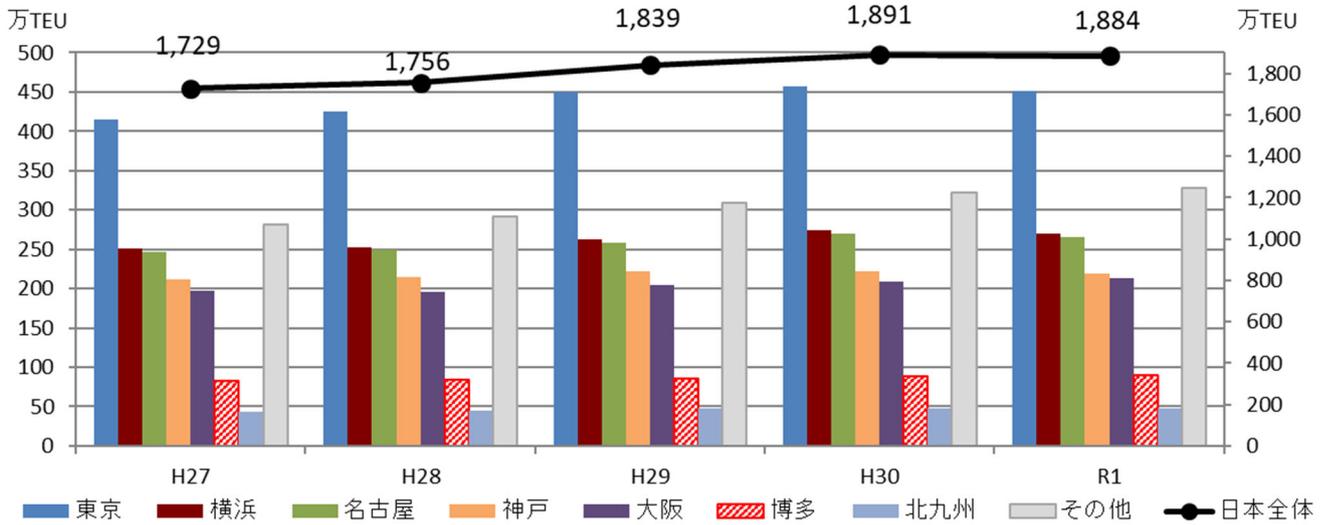
※普通・小型乗用車約 56,000 台に相当

【参考：国内主要港との比較（令和元年）】

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



令和元年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	H27	H28	H29	H30	R1
博多港のシェア	4.8%	4.8%	4.6%	4.7%	4.8%

※国土交通省「港湾統計(年報)」より

※令和2年は未発表

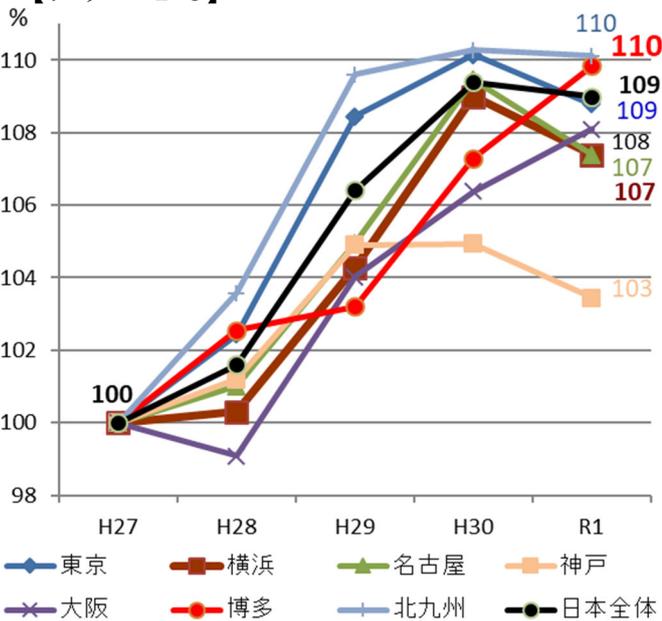
② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱は日本全体や国内主要港と比較しても堅調に推移し、令和元年は日本全体を上回る伸びを見せている。

③ 九州域内の取扱シェア（令和元年）

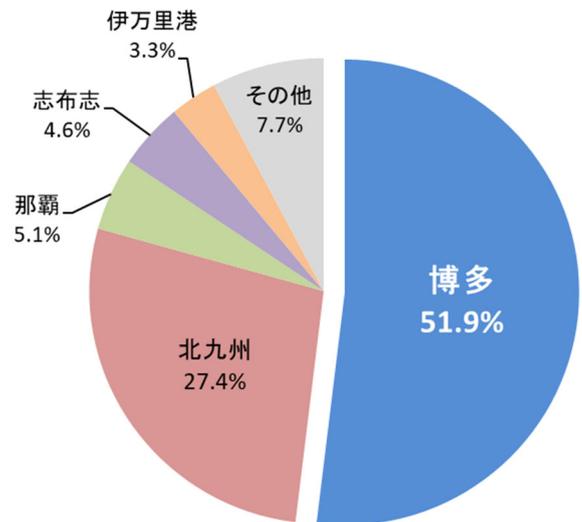
九州域内で取り扱われているコンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

【グラフ 1-5】



※国土交通省「港湾統計(年報)」より

【グラフ 1-6】



※国土交通省「港湾統計(年報)」より

博多港のコンテナ物流について

<全国・博多港の実入り貨物の動向>

全国（実入り・外貿）

（単位：TEU）

	2010年	2019年	増減	伸び率
輸出	5,895,085	5,833,974	▲ 61,111	▲1.0%
輸入	7,663,211	8,843,847	1,180,636	+15.4%

■全国的な動向

- ・輸出貨物は増加していない(微減)
- ・輸入貨物は一定程度増加
- 輸入超過が拡大
- =空コンテナの輸出が増加

博多港（実入り・外貿）

（単位：TEU）

	2010年	2019年	増減	伸び率	2020年	2019年からの	
						増減	伸び率
輸出	220,811	235,858	15,047	+6.8%	197,427	▲ 38,431	▲16.3%
輸入	320,532	422,919	102,387	+31.9%	401,787	▲ 21,132	▲5.0%

■博多港の動向

- ・輸出貨物も一定程度増加
- ・輸入貨物は、全国平均を上回り、著しく増加
- 輸入超過が拡大
- =空コンテナの輸出が増加

※2020年はコロナ禍の影響が大きいため、切り離して記載
※全国の2020年データは未公表

- 実入り貨物について、全国規模で「輸入超過」が進展しており、我が国からの「空コンテナの輸出」が増加している。
- 博多港においては、輸出入ともに増加しているが、特に輸入の伸びが著しいことから、「輸入超過」が拡大し、結果として「空コンテナの輸出」が増加傾向にある。
- 今後成長が期待される貨物を中心に、輸移出貨物集荷に取り組む。

<輸移出貨物集荷の取組み>

- 輸移出貨物については、既存荷主を含めた利便性向上を図るとともに、博多港独自の強みを活かし、中長期的な動向等から、下記を中心とした集荷活動を強化する。
 - ・「染料・塗料・合成樹脂等」、「産業機械」など、中長期的に増加傾向で、近年も増加が顕著な貨物
 - ・海外ネット通販(越境 EC*)で人気が高く、需要拡大が予想される、日本の高品質な食品や日用品
 - ・国を挙げて輸出強化の取組みが進められている、日本の安心・安全な農林水産品
- ※コロナ禍の状況、物流動向等を注視し、必要に応じて見直しを行う。

* 越境 EC: インターネットの通信販売サイトを通じて行う国際的な電子商取引 (EC: electronic commerce)

<具体的な輸移出貨物集荷の取組み事例>

ターゲットとする貨物を中心とした、船社・荷主企業に対する博多港利用提案に加え、トライアル輸送の支援等を実施。

【事例紹介】海外ネット通販(越境 EC)商材輸出に係る博多港の活用事例

航空輸送から海上輸送への切り替えによる「物流効率化」を目的としたトライアル輸送を支援し、輸送コストが大幅に削減される等の効果が確認されたため、博多港の本格利用に繋がった。



<2021年の国際海上コンテナ貨物動向>

国際海上コンテナ取扱個数(1-6月)

(単位: TEU)

区分	2019年	2020年	2021年	2019年～2020年		2020年～2021年	
				増減	伸び率	増減	伸び率
博多港全体	480,354	444,917	459,515	▲35,437	▲7.4%	+14,598	+3.3%
輸移出	234,602	219,592	227,161	▲15,010	▲6.4%	+7,569	+3.4%
実入り	128,902	104,485	116,429	▲24,416	▲18.9%	+11,944	+11.4%
空	105,700	115,107	110,732	+9,407	+8.9%	▲4,375	▲3.8%
輸移入	245,752	225,325	232,354	▲20,427	▲8.3%	+7,029	+3.1%
実入り	217,306	208,113	212,445	▲9,192	▲4.2%	+4,332	+2.1%
空	28,447	17,212	19,909	▲11,235	▲39.5%	+2,697	+15.7%

輸移出貨物の主な増加品目について(1-6月)

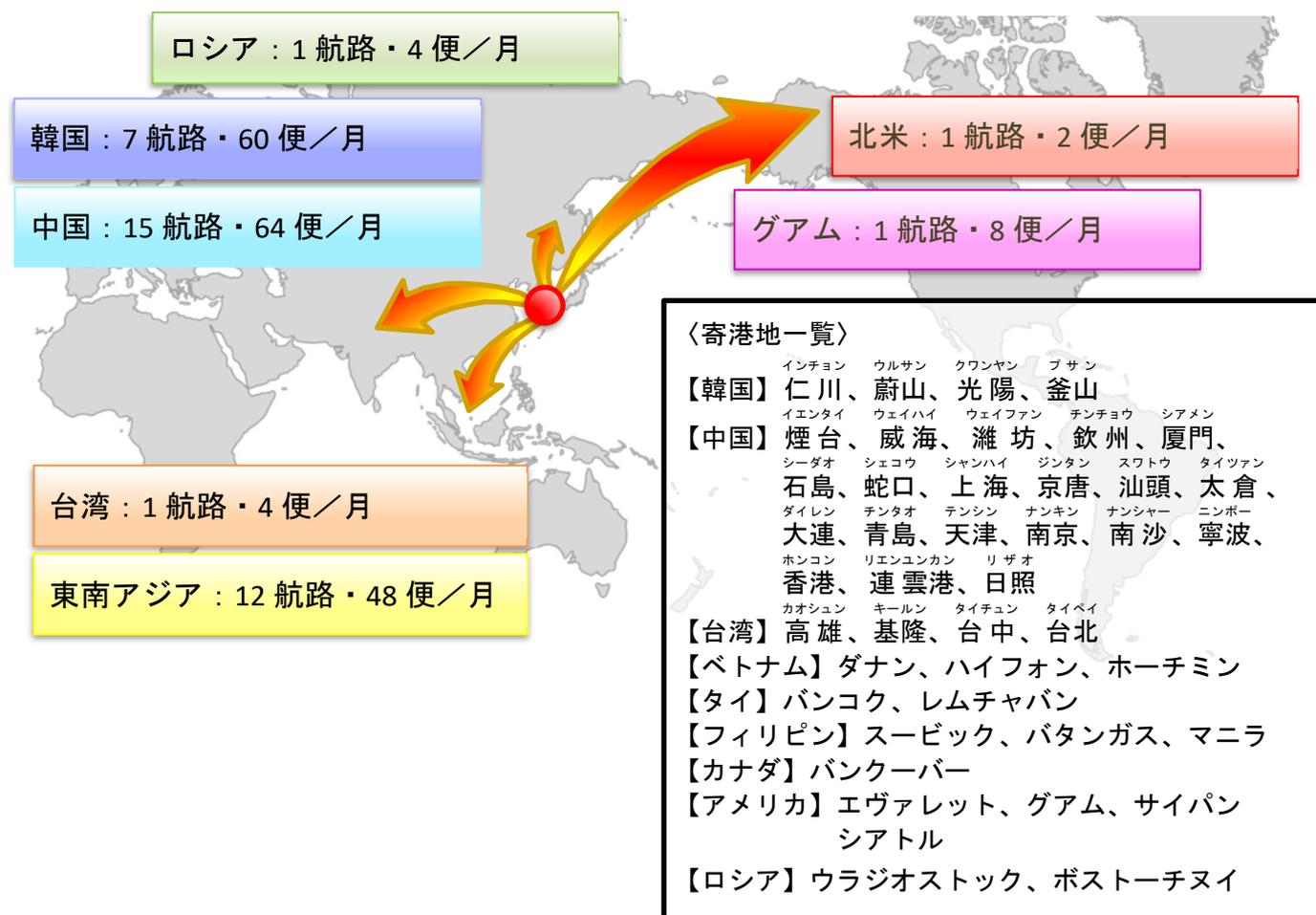
(単位: TEU)

品目名	2020年	2021年	増減	伸び率
産業機械	8,334	11,276	+2,942	+35.3%
ゴム製品	23,975	26,447	+2,472	+10.3%
二輪自動車	1,923	4,301	+2,378	+123.7%
自動車部品	6,622	8,231	+1,609	+24.3%
紙・パルプ	292	1,778	+1,486	+508.9%
飲料	1,116	2,006	+890	+79.7%
染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	6,705	7,552	+846	+12.6%
水産品	2,239	2,933	+694	+31.0%
取合せ品	2,024	2,646	+622	+30.7%
その他日用品	1,610	2,211	+601	+37.3%

2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

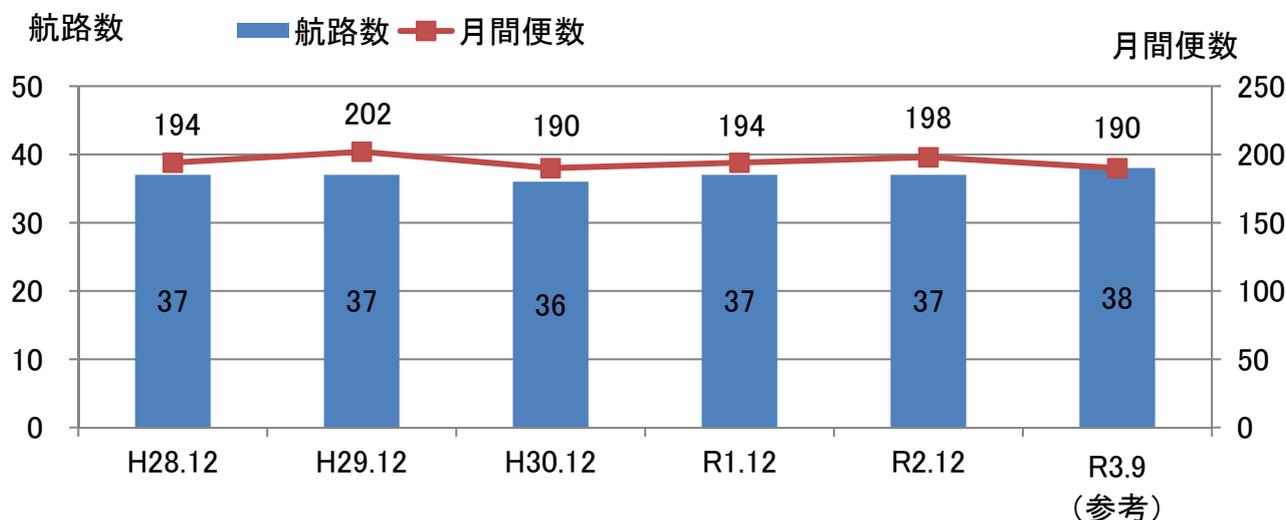
(令和3年9月1日現在)

38 航路・月間 190 便 (9 カ国・地域、43 港とのコンテナ物流網を形成)



■国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和2年港湾統計確定値】

約 3,231 万トン （前年比▲7.3%）

外国貿易：約 1,862 万トン、内国貿易：約 1,369 万トン

（1）海上出入貨物量の推移

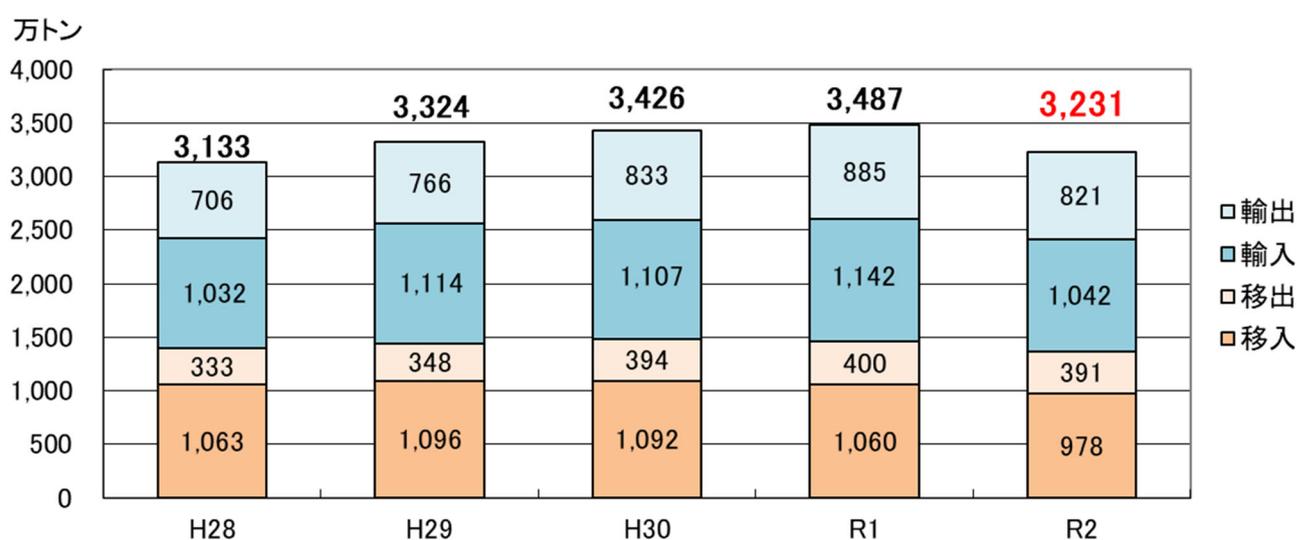
近年は3,000万トン台前半で推移しているが、令和2年は輸移出入ともに前年より減少している。

【表 3-1】

（単位：トン）

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	31,330,559	33,239,832	34,259,778	34,869,325	32,313,714	▲ 2,555,611	92.7%
輸移出	10,388,150	11,137,938	12,275,552	12,852,443	12,119,745	▲ 732,698	94.3%
輸移入	20,942,409	22,101,894	21,984,226	22,016,882	20,193,969	▲ 1,822,913	91.7%
うち外国貿易	17,378,961	18,795,222	19,400,872	20,275,931	18,624,587	▲ 1,651,344	91.9%
輸出	7,061,793	7,658,195	8,332,964	8,854,988	8,205,787	▲ 649,201	92.7%
輸入	10,317,168	11,137,027	11,067,908	11,420,943	10,418,800	▲ 1,002,143	91.2%
うち内国貿易	13,951,598	14,444,610	14,858,906	14,593,394	13,689,127	▲ 904,267	93.8%
移出	3,326,357	3,479,743	3,942,588	3,997,455	3,913,958	▲ 83,497	97.9%
移入	10,625,241	10,964,867	10,916,318	10,595,939	9,775,169	▲ 820,770	92.3%

【グラフ 3-1】



（2）令和2年の貨物量減少の主な要因

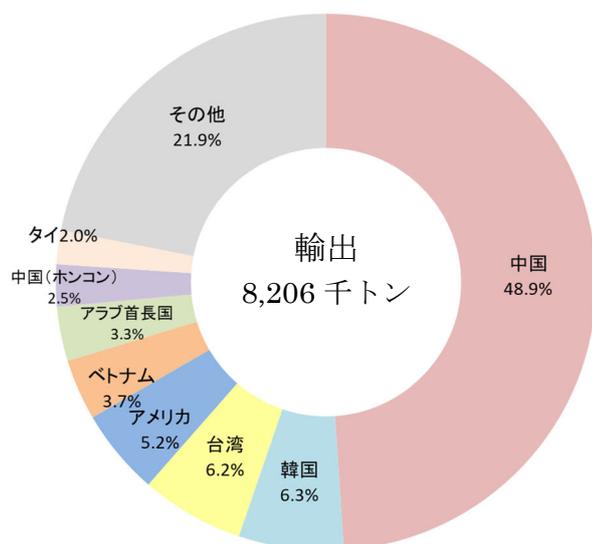
輸移出…ゴム製品（前年比▲46万トン）や産業機械（同▲8.2万トン）の減少等
 輸移入…その他石油（同▲34万トン）や揮発油（同▲15.3万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,625千トン】

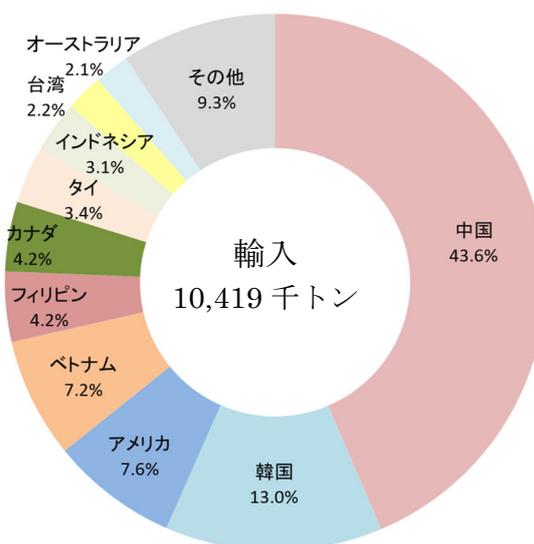
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品(タイヤ等)」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位を占めている。

輸入では、主にアジア諸国から入ってくる「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの(衣類関係)」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:千トン)

輸 出				輸 入			
順位	品種	取扱量	主な輸出相手国	順位	品種	取扱量	主な輸入相手国
1	完成自動車	※ 4,396	中国 韓国 台湾	1	家具装備品	1,349	中国 ベトナム マレーシア
2	ゴム製品	912	アメリカ アラブ首長国 ロシア	2	衣服・身廻品・はきもの	910	中国 ベトナム 韓国
3	産業機械	423	中国 アメリカ ベトナム	3	電気機械	782	中国 タイ 中国(ホンコン)
4	再利用資材	410	ベトナム 台湾 中国	4	麦	645	カナダ アメリカ オーストラリア
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	262	中国 台湾 韓国	5	動植物性製造飼肥料	630	アメリカ 韓国 中国
6	自動車部品	231	アラブ首長国 マレーシア 韓国	6	野菜・果物	540	フィリピン 中国 韓国
7	金属くず	214	ベトナム マレーシア 韓国	7	製造食品	469	中国 アメリカ タイ
8	化学薬品	170	中国 韓国 アメリカ	8	その他日用品	396	中国 韓国 ベトナム
9	輸送用容器	107	韓国 ベトナム フィリピン	9	自動車部品	391	ベトナム 中国 インドネシア
10	製造食品	104	中国(ホンコン) 中国 台湾	10	木製品	343	フィリピン 中国 インドネシア

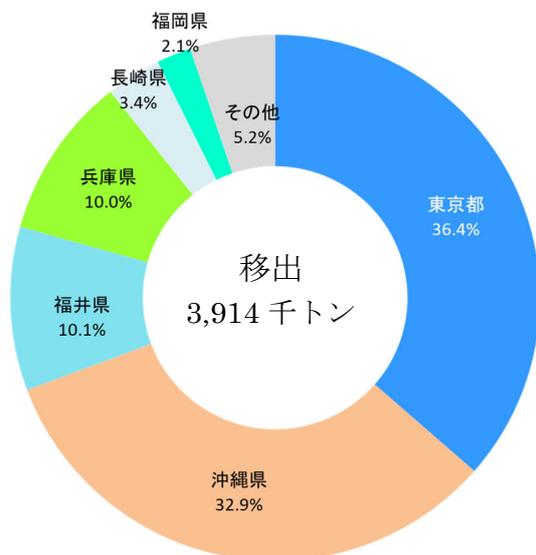
※普通・小型乗用車約440,000台分に相当

(4) 内国貿易 【13,689千トン】

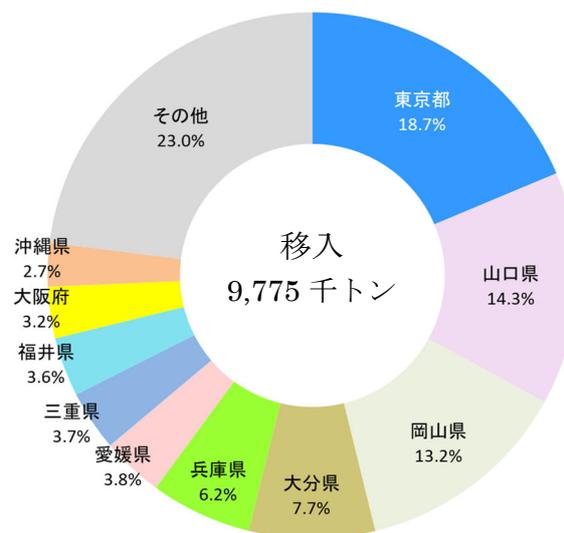
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する東京都や沖縄県との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「揮発油（ガソリンなど）」や「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-3】

(単位:千トン)

移 出				移 入					
順位	品 種	取扱量	主な移出相手都道府県	順位	品 種	取扱量	主な移入相手都道府県		
1	その他輸送機械	699	東京都 福井県 兵庫県	1	揮発油	1,647	岡山県	山口県	大分県
2	取合せ品	523	沖縄県 東京都 長崎県	2	その他の石油	1,563	岡山県	山口県	大分県
3	完成自動車	※1 481	東京都 沖縄県 兵庫県	3	砂利・砂	1,542	海上採取	長崎県	福岡県
4	製造食品	237	沖縄県 長崎県 兵庫県	4	完成自動車	※2 1,349	東京都	三重県	沖縄県
5	その他日用品	183	沖縄県 長崎県 兵庫県	5	セメント	521	山口県	福岡県	-
6	鋼材	177	沖縄県 兵庫県 長崎県	6	鋼材	416	大阪府	岡山県	兵庫県
7	自動車部品	137	福井県 兵庫県 東京都	7	取合せ品	316	東京都	沖縄県	兵庫県
8	麦	133	沖縄県 兵庫県 岡山県	8	重油	250	大分県	山口県	岡山県
9	ゴム製品	126	兵庫県 東京都 福井県	9	米	222	東京都	-	-
10	金属製品	126	東京都 沖縄県 福井県	10	その他農産品	216	東京都	兵庫県	福井県

※1 普通・小型乗用車約 48,000 台に相当

※2 普通・小型乗用車約 135,000 台に相当

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和2年港湾統計確定値】

約76万8千人 (前年比▲72.6%)

外国航路：約11万7千人、内国航路：約65万1千人

(1) 船舶乗降人員数の推移

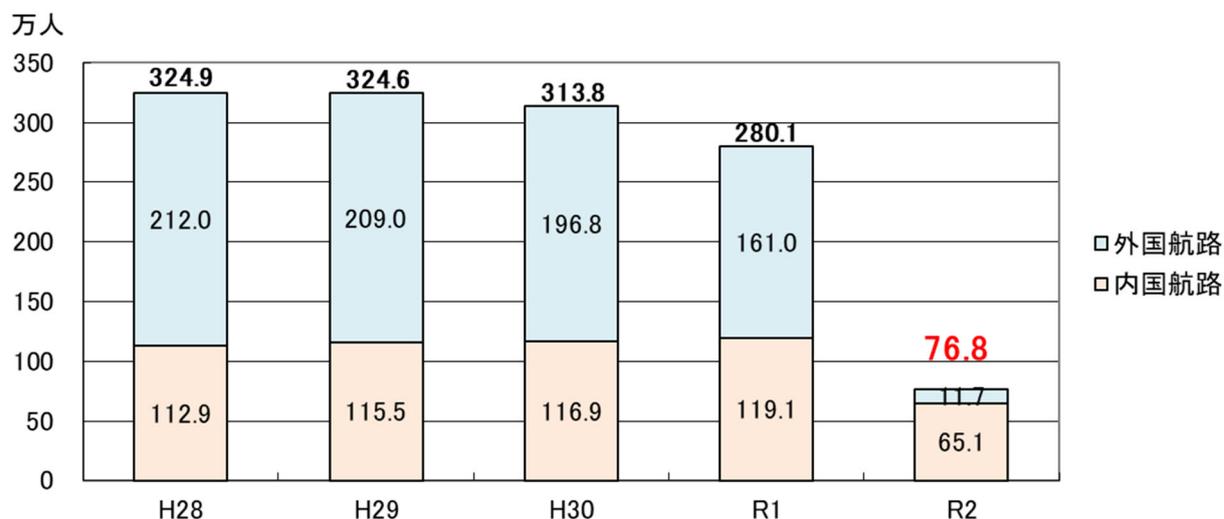
外国航路、内国航路とも、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等により、前年より大幅に減少している。

【表1】

(単位:人)

区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	3,249,241	3,245,514	3,137,545	2,800,804	767,927	▲ 2,032,877	27.4%
外国航路	2,120,035	2,090,345	1,968,427	1,609,678	116,901	▲ 1,492,777	7.3%
内国航路	1,129,206	1,155,169	1,169,118	1,191,126	651,026	▲ 540,100	54.7%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和2年港湾統計確定値】

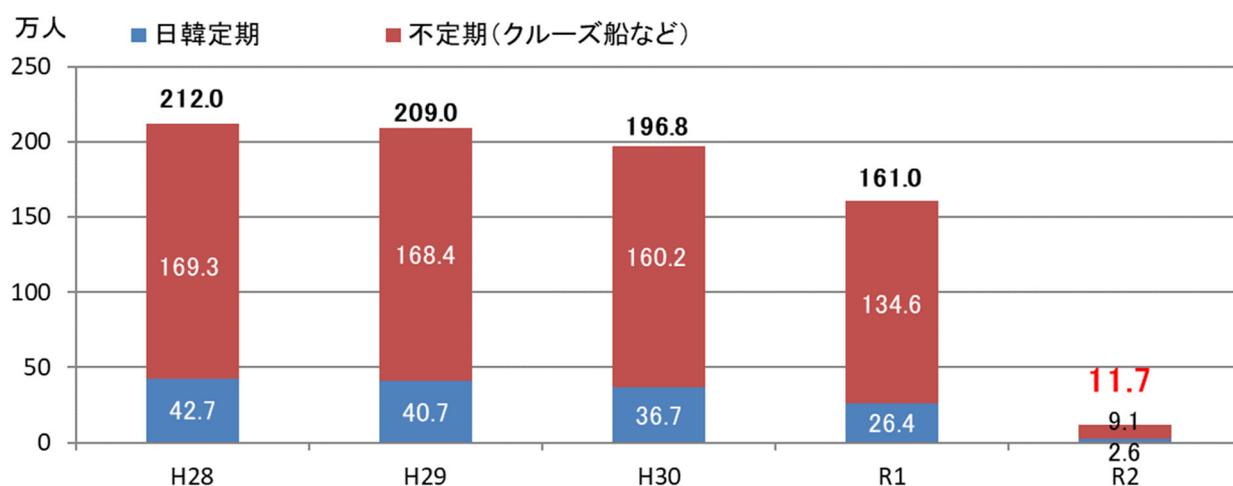
乗降人員数：約11万7千人

日韓定期航路：約2万6千人、不定期航路(クルーズ船など)：約9万1千人

(1) 外国航路船舶乗降人員数の推移

定期航路、不定期航路ともに、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等によりそれぞれ乗降人員数が大幅に減少している。

【グラフ2】



【参考：国内上位5港の推移】

【表2】

(単位:人)

順位	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数
1	博多港	1,607,290	博多港	2,120,035	博多港	2,090,345	博多港	1,968,427	博多港	1,609,678
2	長崎港	859,308	長崎港	1,044,154	長崎港	1,538,571	長崎港	1,394,392	那覇港	1,347,776
3	那覇港	406,095	那覇港	761,298	那覇港	969,481	那覇港	1,217,201	長崎港	1,091,761
4	比田勝港	281,576	比田勝港	362,026	八代港	573,962	比田勝港	632,842	石垣港	581,023
5	石垣港	220,158	鹿児島港	344,469	比田勝港	515,506	鹿児島港	533,180	平良港	522,529

※国土交通省「港湾統計(年報)」より

※令和2年は未公表

3. クルーズ船の寄港回数

【令和2年確定値】

寄港回数：14回

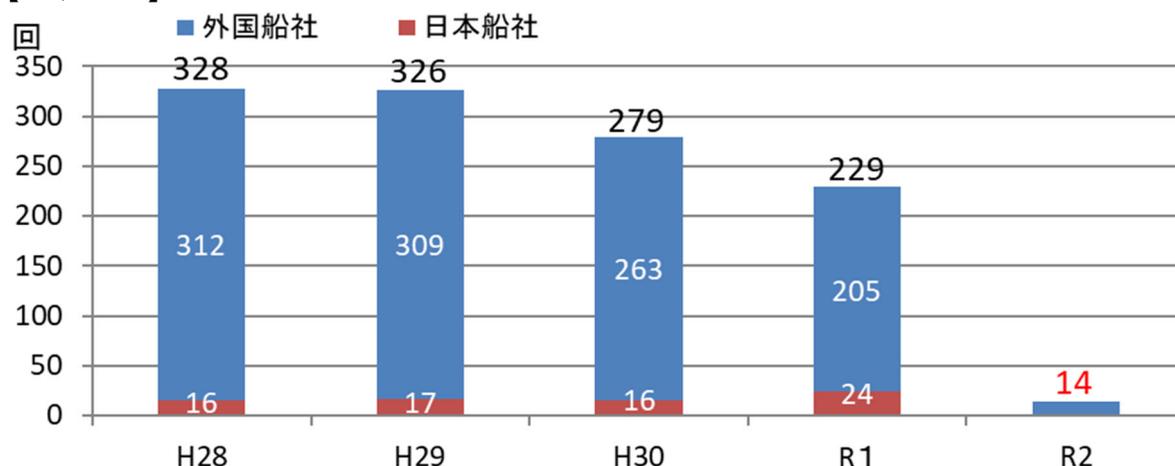
外国船社：14回、日本船社：0回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

平成29年3月より中国から韓国への団体旅行が事実上禁止され、中国発のクルーズ船は1回のツアーで日韓2か国を回ることができなくなり、商品の魅力が薄れたことや、中国クルーズ市場の急拡大後の調整局面が続き、中国への配船が減少したことに伴い、近年、寄港回数が減少傾向にあった。

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、2月以降クルーズ船の寄港がなくなり、寄港回数が大幅に減少した。

【グラフ3】



【表3】我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	博多	328 (312)	博多	326 (309)	博多	279 (263)	那覇★	260 (251)	ペリスタリーナ 【広島県】	53 (0)
2	長崎	197 (190)	長崎	267 (262)	那覇★	243 (236)	博多	229 (205)	横浜★	47 (3)
3	那覇	193 (183)	那覇	224 (217)	長崎	220 (215)	横浜★	188 (87)	神戸	29 (2)
4	横浜	127 (40)	横浜	178 (57)	横浜★	168 (70)	長崎	183 (178)	那覇★	19 (17)
									宮島	19 (0)
5	神戸	104 (32)	石垣	132 (129)	平良★	143 (142)	石垣	148 (146)	-	-
6	石垣	95 (91)	平良★	130 (129)	神戸	136 (66)	平良★	147 (146)	笠島漁港	16 (0)
7	平良★	86 (84)	神戸	116 (43)	ペリスタリーナ 【広島県】	122 (0)	神戸	131 (63)	博多	14 (14)
日本全国	2,017 (1,443)		2,764 (2,013)		2,930 (1,913)		2,866 (1,932)		352 (66)	

※出典：国土交通省港湾局発表資料より

※()内は外国船社の寄港回数、★はクルーズ拠点港

市営渡船の経営状況

< 航路別収支 >

(単位：千円)

区分		令和2年度 決算(案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	47,004	204,314	43,594	22,748	317,660
	国・県補助金	0	0	103,250	51,578	154,828
	計	47,004	204,314	146,844	74,326	472,488
歳出	運航経費	320,756	384,092	288,422	130,611	1,123,881
運航収支		▲ 273,752	▲ 179,778	▲ 141,578	▲ 56,285	▲ 651,393
公債費(市債償還分)等		13,771	37,064	31,700	63	82,598
繰入金		▲ 287,523	▲ 216,842	▲ 173,278	▲ 56,348	▲ 733,991

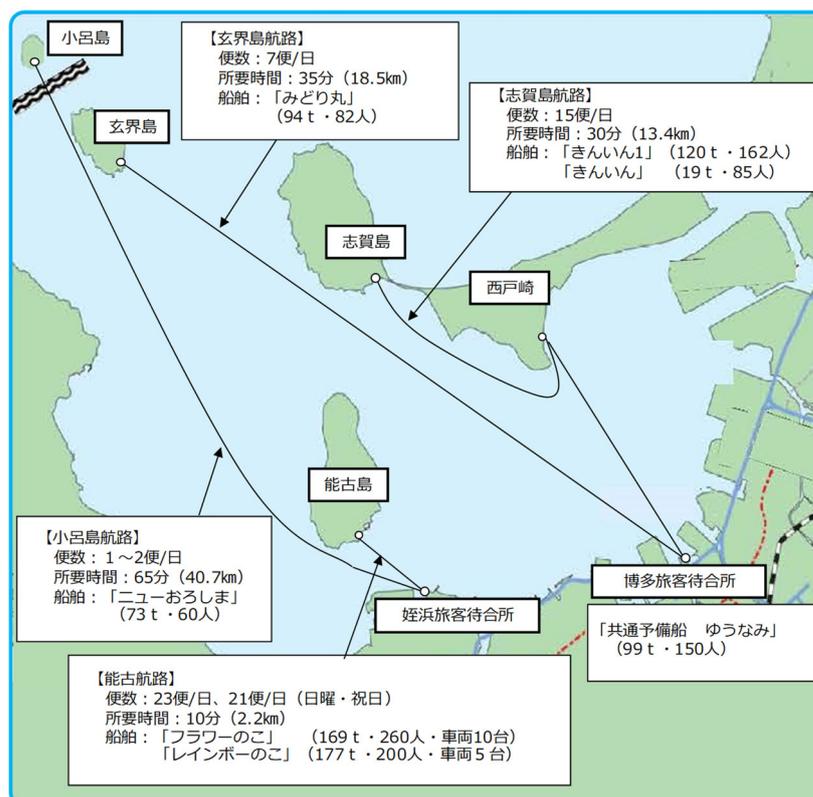
< 取り組み状況 >

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、生活航路として、地元の方々に安心してご利用いただけるよう、引き続き感染症対策を徹底するとともに、収束後は、各航路における観光利用の促進に努め、増収増客を目指す。

◆具体的な感染症対策の取り組み

- ・待合所、船内客室の換気及び座席、手すり等の消毒
- ・乗船時のマスクの着用、手指アルコール消毒の呼びかけ
- ・多客時の増便による船内の混雑解消 など

< 航路概要図 >



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和2年港湾統計確定値】

入港隻数：25,949隻

総トン数：約5,598万総トン

外国航路：3,074隻・約3,580万総トン、内国航路：22,875隻・約2,018万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

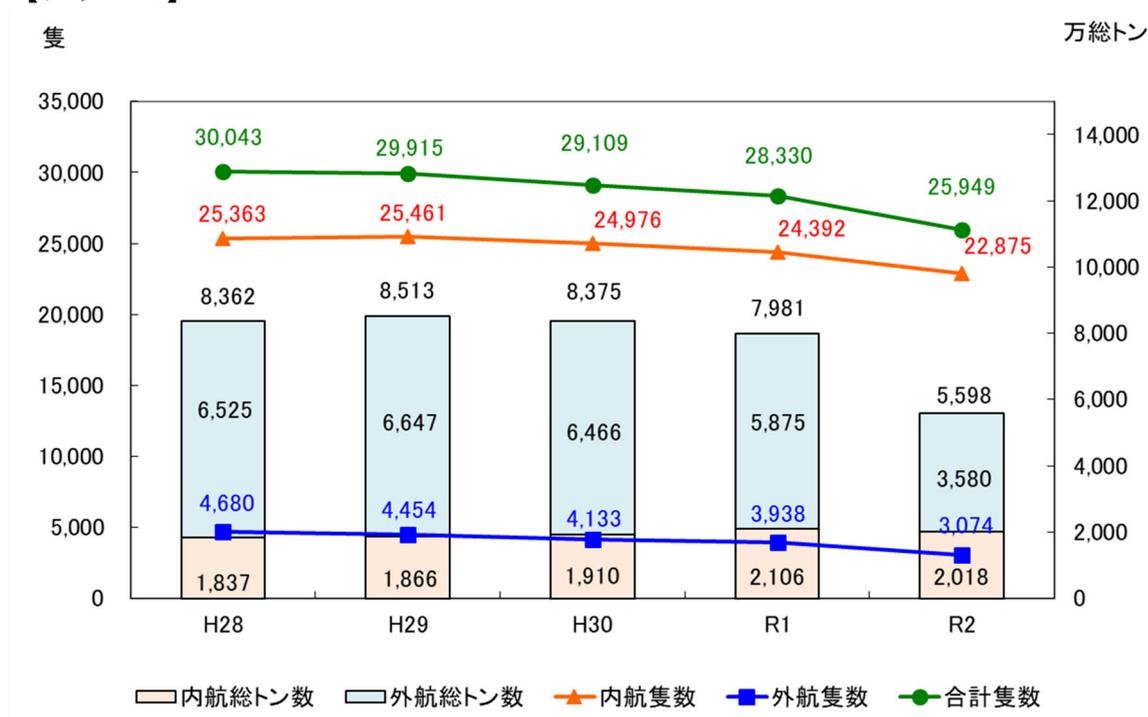
入港隻数、総トン数ともに、近年減少傾向にある。令和2年はクルーズ船の寄港回数的大幅な減少等により、入港隻数、総トン数ともに減少している。

【表1】

(単位: 隻、総トン)

区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減(R2/R1)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	30,043	29,915	29,109	28,330	25,949	▲ 2,381	91.6%
外国航路	4,680	4,454	4,133	3,938	3,074	▲ 864	78.1%
内国航路	25,363	25,461	24,976	24,392	22,875	▲ 1,517	93.8%
総トン数	83,619,114	85,134,616	83,754,376	79,805,066	55,983,314	▲ 23,821,752	70.2%
外国航路	65,252,370	66,470,908	64,657,295	58,748,120	35,802,548	▲ 22,945,572	60.9%
内国航路	18,366,744	18,663,708	19,097,081	21,056,946	20,180,766	▲ 876,180	95.8%

【グラフ1】



第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和2年確定値】

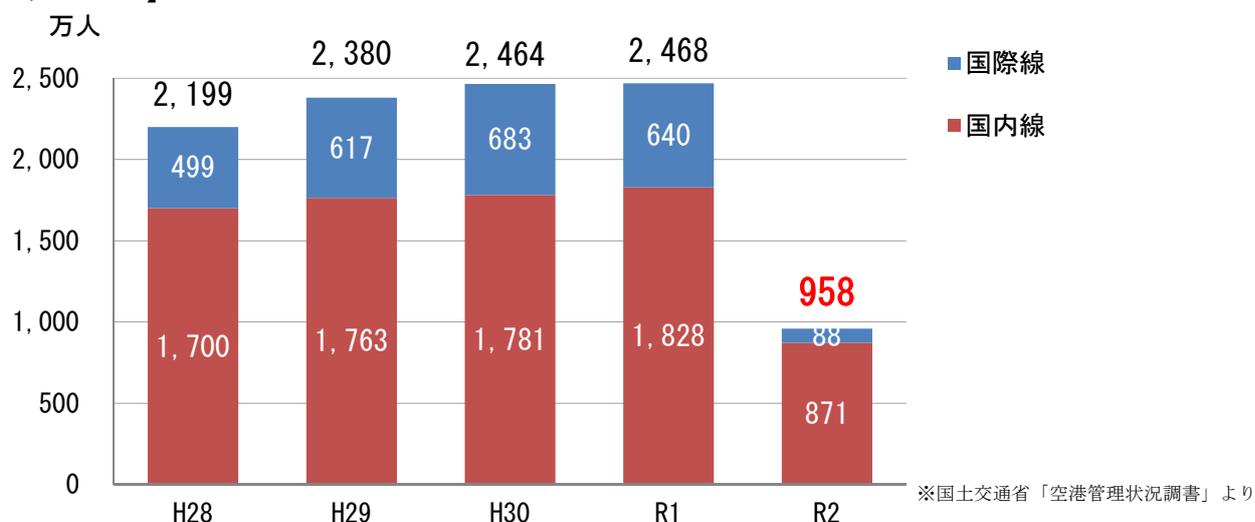
乗降客数：約 958 万人

国際線：約 88 万人 国内線：約 871 万人

(1) 乗降客数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

【グラフ 1-1】

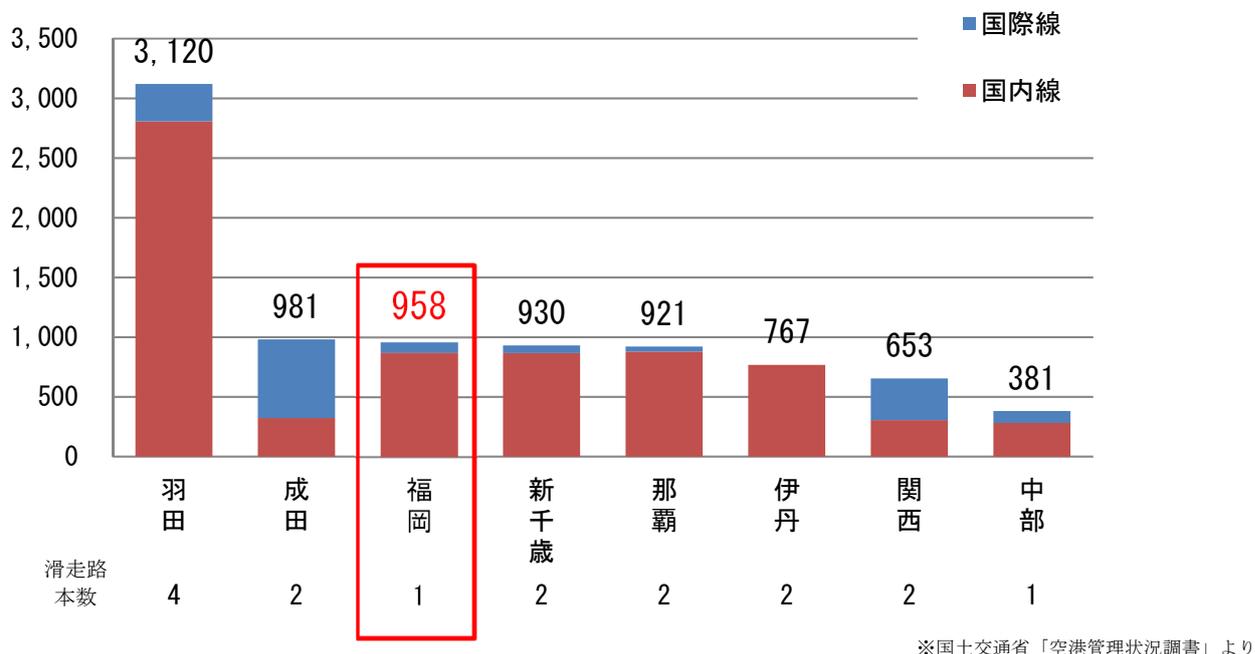


【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の乗降客数は国内第3位である。

【グラフ 1-2】

万人



2. 貨物取扱量

【令和2年確定値】

貨物取扱量：約14万8千トン

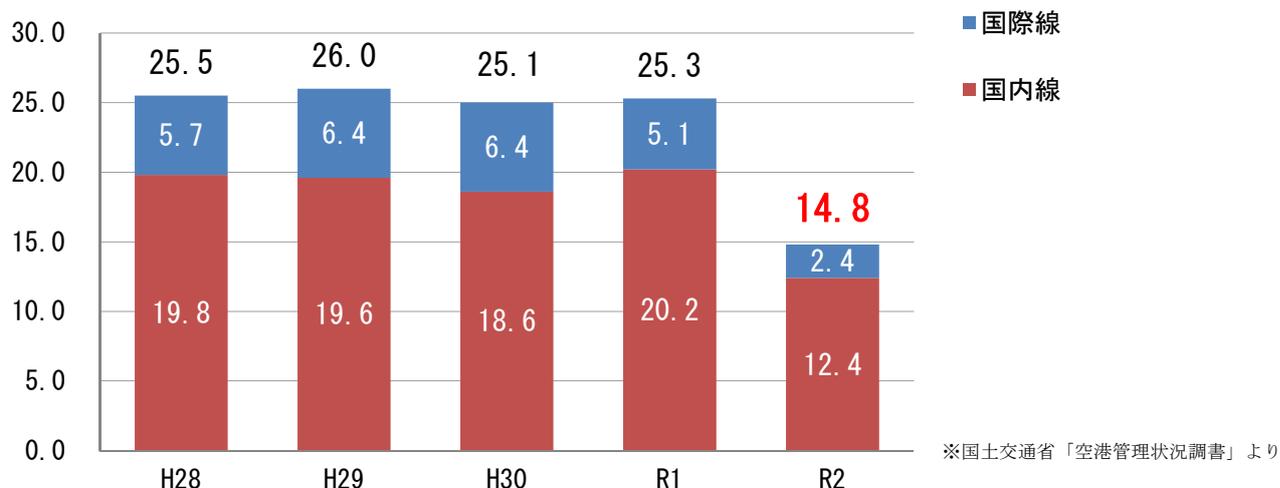
国際線：約2万4千トン 国内線：約12万4千トン

(1) 貨物取扱量の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

【グラフ 2-1】

万トン

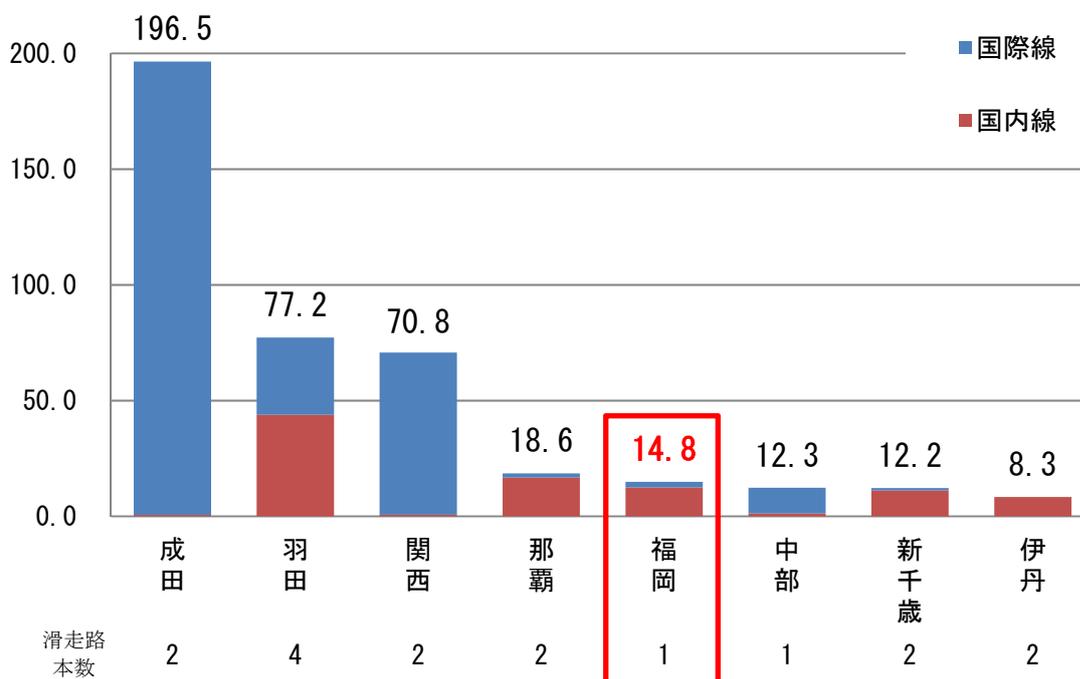


【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】

万トン



3. 発着回数

【令和2年確定値】

発着回数：約11万2千回

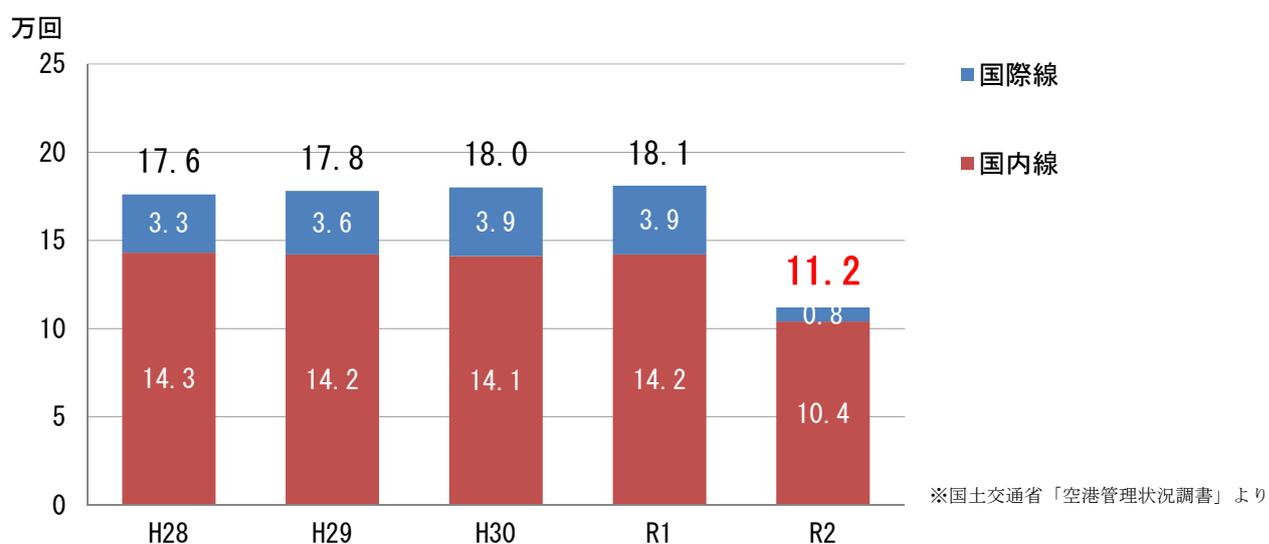
国際線：約8千回

国内線：約10万4千回

(1) 発着回数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

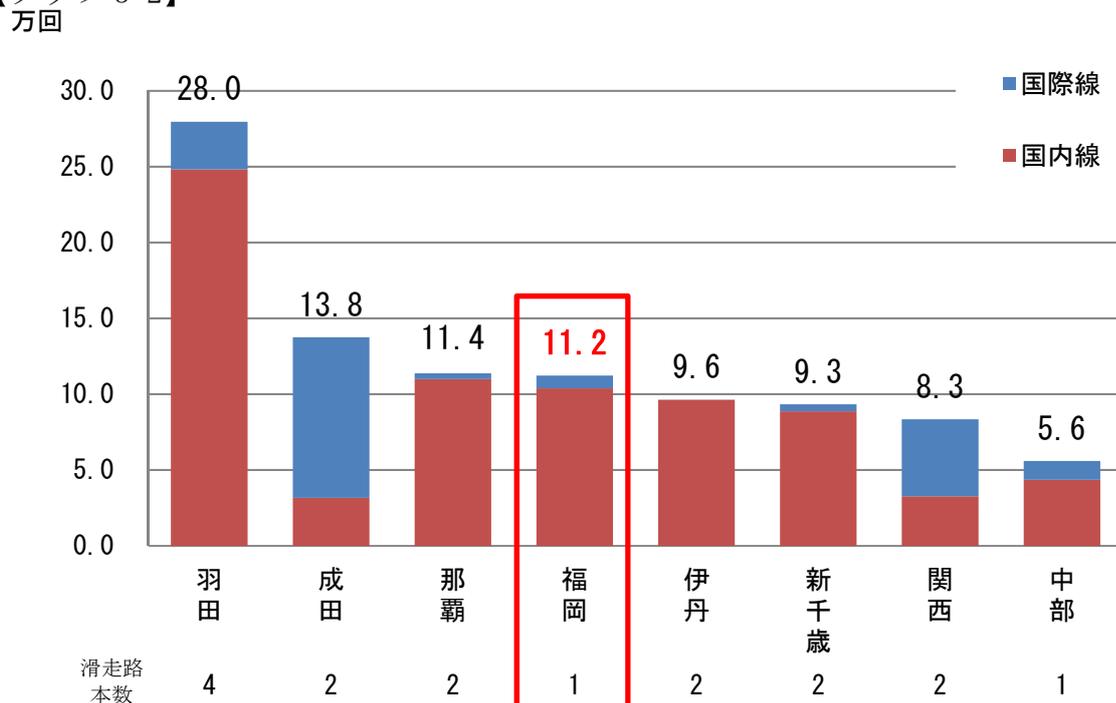
【グラフ3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ3-2】



4. 路線状況

令和3年9月現在で、路線数は国際線が20路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週740便、国内線が1日364便となっている。

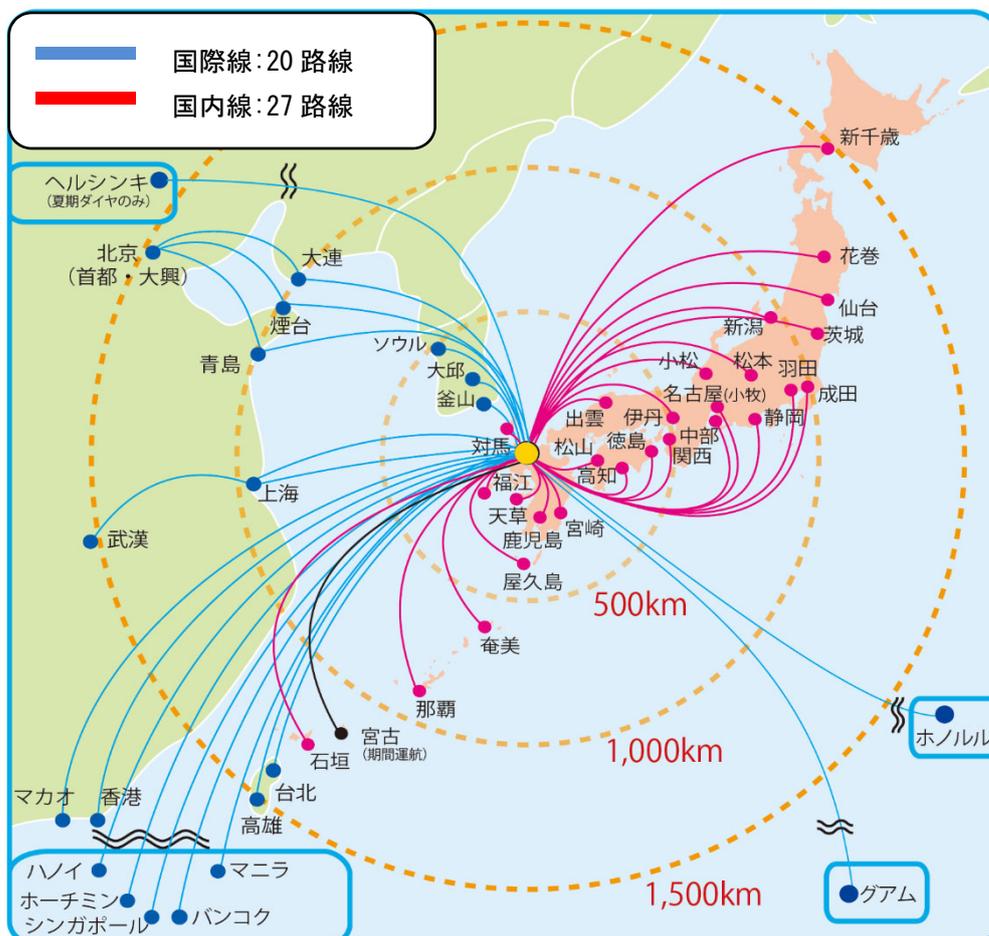
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により運休・減便が発生している。

福岡空港の時刻表（9月）を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	20	740 (便/週)	25	ソウル、釜山、大邱、上海、武漢、北京、大連、 青島、煙台、台北、高雄、香港、マカオ、 マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル、ヘルシンキ ※下部は時刻表上「運休」 計21都市（9カ国・地域）
	15	724 (便/週)	20	
国内線	27	364 (便/日)	12	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く

福岡空港路線図（令和3年9月現在）



福岡空港の機能強化



滑走路増設事業

航空機混雑の抜本的解消や将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和7年3月末供用開始予定)

平行誘導路二重化

空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延の緩和等を目的として、平行誘導路の二重化を実施(令和2年1月30日完了)

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和3年3月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主 な 協 議 内 容
<p>令和3年6月4日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【運営会社】 副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、前回の幹事会以降に開催された市議会における、空港関連の主な質疑について説明。 ・運営会社から2020年度決算について情報共有があり、新型コロナウイルス感染症の影響により、先行きが不透明な中、経営環境は依然厳しい状況にあるが、自助努力や国の支援策活用により、当面の資金繰り確保を目指していくと説明。 ・運営会社から2021年度事業計画について、感染拡大防止対策を推進するとともに、就航路線の復便・航空ネットワークの拡充や施設開発計画の推進に取り組んでいくと説明。また、2050年カーボンニュートラルを目指す国の動向を踏まえ、空港としても脱炭素の取組みを着実に進めていくことを確認。 ・市から、これまで市が意見してきた項目が事業計画に反映されていることを確認するとともに、厳しい状況にあっても、引き続き安全・安心な空港運営や周辺住民に寄り添った空港運営を依頼。 ・運営会社から、今後の国際的な人の往来の再開に向け、海外渡航者向けPCR検査・陰性証明書の発行体制の整備について、国内線ターミナルに入居する医療機関と協議をしていると説明。 ・市から、訪問・通所介護従事者や留守家庭子ども会の職員、学校の教職員等を対象とする、市独自のワクチン優先接種に関する取組みを説明するとともに、変異株ウイルスが拡大していることを踏まえ、空港内の感染症拡大防止対策の徹底及び国と連携した水際対策の強化等を改めて依頼。

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和3年8月30日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【運営会社】 副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、世界水泳福岡 2022 や国際金融機能の誘致等の施策を説明するとともに、空の玄関口である福岡空港におけるおもてなしや都市の魅力の発信などについての連携・協力を依頼。 ・2020 年度事業報告について、運営会社から新型コロナウイルス感染症の影響により経営環境は依然厳しい状況にあるが、安全・安心を最優先に、周辺地域との更なる信頼関係の構築や利用者の利便性向上に引き続き取り組んでいくとの説明。 ・市からワクチン接種の状況を説明。運営会社から海外渡航者向け PCR 検査・陰性証明書の発行体制が整備されるとともに、市民や空港利用者の国内移動をサポートする PCR 検査センターが開設されたとの説明。 ・将来の国際的な人の往来再開に向け、国内外における水際対策の状況などの情報共有を図るとともに、アフターコロナに向けた空港利用の促進に取り組むことを確認。 ・市から、安全・安心や周辺住民に寄り添った空港運営の継続を依頼するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大が続いている中、空港施設内における感染対策の徹底、国の水際対策への協力を要請。 ・市から、トップレベルの協議会を開催することを提案し、実施に向けて調整していくことで、両者合意。

